



法科大学院(ロースクール)、司法試験について

◇今回は、小林巧さん(京都大学法科大学院卒業)のレポートです！

1. はじめに

はじめまして。私は、2012年に関高校を卒業した小林巧と申します。その後、2016年に同志社大学法学部法律学科、2018年に京都大学法科大学院を卒業し、2019年に2回目の受験で司法試験に合格しました。この記事を書いている時点では、試験合格後に行われる司法修習という1年間の研修の開始を待っている状態です(修習後の最終試験に合格することでようやく弁護士・検察官・裁判官となる資格を得ることができます)。

弁護士・検察官・裁判官(これらを総称して「法曹」と呼びます)は、テレビドラマなどでも頻繁に取り上げられる職業であり、ご存知の方も多くいらっしゃると思いますが、今回はこれらの「法曹」となる資格を得るために必要な法科大学院(ロースクール)と司法試験に関する話をしていこうと思います。

2. 法曹となるには？

法曹資格を得るには司法試験に合格し、その後1年間の司法修習へ行って修習の修了試験に合格する必要があります。また、司法試験には受験資格が存在し、ロースクールを卒業するか、司法試験予備試験に合格することで受験資格を得ることができます。

したがって、法曹資格を得るには、①大学卒業後にロースクールへ進学し、ロースクールを卒業して受験資格を取得し、司法試験に合格して司法修習を終了するルート、②司法試験予備試験(この試験には受験資格はありません)に合格して受験資格を取得し、司法試験に合格して司法修習を終了するルートの2通りがあります。私は①のルートによる資格取得を目指しています。

①のルートにあるロースクールを卒業するにはかなりの費用と時間がかかるため、お金と時間がないという方の救済ルートとして②のルートがあります。しかし、予備試験の合格率は約3%と司法試験以上の難関試験となっているため、ロースクールを卒業して受験資格を得る受験生が圧倒的に多いです。ただし、上述したように予備試験には受験資格が存在しないため、大学やロースクール在学中に予備試験を受験する方はたくさんいます(私も何度か受験しましたが結局合格できませんでした)。

3. 法科大学院(ロースクール)について

大学の法学部とロースクールでは法律について学びます。このようなことを言うと「法律の勉強って六法を全部覚えるの？」という質問をされることがよくあります。しかし、答えはNOです。覚えるよりむしろ考えることが法律学習の中心です。

例えば、刑法204条の傷害罪には「人の身体を傷害した者は、15年以下の懲役又は50万円以下の罰金に処する。」と記載されています。ナイフで人の身体を切り付けてケガをさせる行為が「人の身体を傷害した」に当たることは明らかだと思います。では、毎日大きな騒音を立てて隣の家の人に精神的苦痛を与え、それによって不眠症を発症させた場合はどうでしょうか？騒音によって隣人を病気にしていますが、このような場合も「傷害した」に当たるのでしょうか？ここでは、「傷害した」という言葉がどのような意味かを考えなければならぬのです。最高裁判所の判例は、傷害罪の「傷害」とは、人の生

理的機能を侵害すること、すなわち人の健康状態を不良にすることを意味すると考えています。この考え方によるのであれば、人を病気にすることも「健康状態を不良にすること」に当てはまるといえますから、「傷害した」に当たるといえます。人をケガさせることと病気にさせることはいずれも非難されるべき行為ですから、傷害罪として処罰すべきであるという価値判断がこのような考え方を支えています。

このように、法律学は、条文の言葉がどのような意味かを考える学問であり、どのように考えるべきかについて様々な議論をします。その前提知識として、判例がどのように考えているのか、他の有力な考え方にはどのようなものがあるのかを専門書などを通じて学習します。そして、ロースクールでは実際に起こった複雑な事件などを題材にして、どのような条文の言葉をどのような意味に考えれば依頼人を救えるかを、ロースクールの教授を相手にして議論します。大学の法学部では教授の考え方を講義という形で一方的に聞くことが中心ですが、ロースクールでは教授との議論をすることが中心です。

上記の例では最高裁判所の考え方を引用しましたが、最高裁判所が考えたことだからといってそれが必ずしも正しいとは限りません。時には、最高裁判所の考えが判決として示された途端に教授や弁護士達から激しい批判がされることもあります。同様に、ロースクールの教授の考えであってもそれが正しいとは限らず、学生が異なる考えをぶつけたうで激論を交わすこともあります。法律学において唯一の正解というものはなく、教授と学生の議論を通じて法律の考え方を鍛えていくのがロースクールの授業です。私自身もロースクール在学中には教授に自分の考えをぶつけていましたが、考え方の甘い点を指摘されて落ち込んだりすることがよくありました。しかし、そこで新たな視点を学ぶことでより説得力のある考えを述べることができるようになるのです。

4. 司法試験について

ロースクールを卒業すれば、いよいよ司法試験の受験資格を得ることができます。司法試験は5月半ばに中休み1日を含む合計5日間で行われます。1日目に論文式試験の選択科目・憲法・行政法、2日目に論文式試験の民法・商法・民事訴訟法、4日目に論文式試験の刑法・刑事訴訟法、5日目にマーク式試験の民法・憲法・刑法の試験があります。

論文式試験では長大な事案が与えられ、各小問の指示に従いながらその事案の解決方法などについて自身の考え方を論述します。長大かつ複雑な事案を細かな指示に従いながら各科目2時間で処理する必要があり、時間的に厳しい試験となります。ただし、上述したように法律学に絶対の正解はなく、自分なりの考え方を説得的に論じ、法曹としての素養の一端を見せることができれば合格点に達します(もっとも、説得的な論述をして素養の一端を見せることはとても難しいです)。

試験最終日の5日目にはマーク式試験があります。この試験は必ずしもセンター試験のような4択問題というわけではなく、憲法と刑法の試験は少し複雑な形式です。マーク式試験単独の基準点に到達しなければ論文式試験を採点してもらえないため、最終日にしてそれまでの論述の成果が無駄になるかもしれないというプレッシャーの中で試験を受けることになります。

5. さいごに

法科大学院を主軸とする新司法試験が2006年にスタートしたものの、受験者数は減少し続け、法科大学院制度は失敗だったと言われることが多くなりました。2年ないし3年という期間と決して安くはない学費を敬遠して司法試験受験を諦める方が多くいることは事実であり、多種多様なバックグラウンドをもつ合格者を輩出するという法科大学院制度の当初の目的は崩れたといえるかもしれません。しかし、私のような凡人にとって、2年間学生という一応の身分を得たうで同じ試験の合格を目指す仲間が集ま

る環境で切磋琢磨しながら法律を学び、修了すれば専門課程を卒業した証明を得ることができる法科大学院制度は魅力的なものであり、現在の制度でなければ私は司法試験を受験していなかったと思います。大学 4 年間は理系の大学へ行き、ロースクールから本格的に法律を学んで司法試験に合格した方も一定数存在し、「法科大学院がなければ司法試験を受験しなかった」と述べているため、多種多様なバックグラウンドをもつ合格者の輩出という目的も全く達成できなかったというわけではなさそうです。

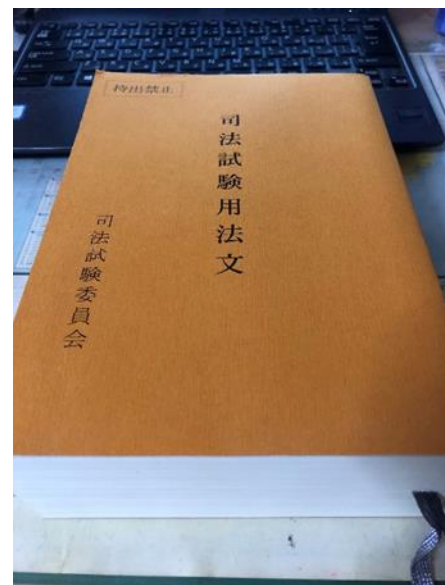
メディアなどで、弁護士になっても食べていけないなどと誇張した報道がなされていることも法曹人気の低下に拍車をかけているのかもしれませんが。しかし、資格さえ取得できれば稼ぐことができたという時代から、相談者の方に親身に寄り添って創意工夫に富んだサービスを提供しなければ顧客を獲得できないという他の業界では当たり前のことが法曹業界でも必要となっただけであり、これらの努力を怠った者が自由競争の中で淘汰されていくことはむしろ当たり前といえます。また、法曹資格を取得したからといって必ずしも法律相談を行って代理人として法廷へ行くことだけが仕事ではなく、法曹資格を売りにして紛争対応まで一貫したサービスを提供する新たなベンチャー企業を立ち上げたりする方もいらっしゃいます。資格は自身の活動範囲を広げる便利なカードの 1 つにすぎず、どのように使うかという点が最も重要であると私は考えています。

ここまでかなり難しい話や具体的な暗い話もしてきましたが、やはり 2 年ないし 3 年という期間と安くはない学費を消費したうえで、受かる保障のない試験に挑むというリスクな人生選択をするにあたって、負の側面を知ることは必要不可欠であると思います。私は上述の内容をあまり意識しないままリスクな選択をしてしまったので、まだ高校生の皆さんにはよく考えて人生選択をしてほしいです。このようなことを理解したうえでなお法曹は面白そうと思った方は是非司法試験を受験してください。法曹資格には自分のやる気次第であらゆる分野に切り込んでいくことができる強力な力があると思うので、資格取得後はワクワクできる刺激的な日々が待っているだろうと私は期待しています。

ちなみに、私が大学に入学した時にはなかった法曹養成コースなる課程が大学に設置されるという話があったり、ロースクールの中には比較的簡単な条件で学費が全額免除されるシステムもあったりするので色々調べてみることをおすすめします。



※ロースクール卒業式の日の写真です(笑)



※司法試験では配布された六法を参照することができます。試験が終わるともらえます。